

# 会報

第30号(2015/10/28)

広島県福山市木之庄町 4-3-14

Tel&Fax:084-917-5937

Mail:info@crrc-fukuyama.org



Community Renaissance  
Research Center

## 11月の予定

**11月15日(日)10時〜13時半頃**  
**仁伍音楽祭**

場所：仁伍広場

(ルネッサンス事務所前)



本NPOでは、おでん販売・子ども向け輪投げ・リサイクルバザーを出店します。お家で眠っている不要品がありましたら、11月10日までに送ってください。

また、前日13時よりおでんを仕込みます。前日または当日のお手伝いを頂ける方がありましたら、ご連絡ください。ご協力よろしくお願い致します。

ステージでは、地域の絆の利用者さんがコミュニティルネッサンスで練習した合唱を披露します。お時間のある方は、ぜひお越しください。

**11月25日(水)14時〜16時**  
**こんにゃく作り**

- ・場所：ルネッサンス研究所集会所
- ・講師：藤原スエ子さん
- ・参加費：500円

こんにゃく芋をいただきました。一緒にこんにゃくを手作りしてみませんか。出来上がったものはお土産に持ち帰っていただけます。



こんにゃく芋です↑手前のボールペンと比べて。写真では一見かわいいように見えますが、実物は大きくずっしり重いですよ！

FAXまたはメールで申し込んでいただければありがたいです。

## 「仁伍コミュニティ合唱団」誕生！



11月15日の「仁伍音楽祭」のステージで発表するために、地域の絆の利用者さんとコーラスを練習しています。現在までに8月5日、9月9日、10月7日と3回の練習をしました。利用者さんの提案で『仁伍コミュニティ合唱団』と命名。

初回は、利用者さん15名に地域の絆の職員さんとNPOスタッフ8名に子ども3名で集会所はいっぱいになり、参加者が少ない方が良かったらと、2回目以降は10名、8名となりました。慣れてこられたのか、だんだんと皆さんの表情が明るくなってきました。

1回目は用意した歌集ファイルの最初から順に歌っていき、皆さんのお好きな曲がだんだんわかってきました。2回目の「茶摘み」の歌では手遊びが加わったことなどもあつてか、みなさん口を大きく開いて声もよく出て明るい表情で歌っていらつしやいました。3回目は仁伍音楽祭で発表する候補曲を中心に歌い、最初から大きくはっきりした声でよく揃っていました。



たくさん参加いただき  
ありがとうございました



手をたたきながら・・・  
「茶摘み」



**利用者さんの様子**

それぞれの回で利用者さんの素敵な姿が見られました。初回のリクライニング車イスで見えた方は、一見すると参加されていないようでした。しかしよく見ていると、知っている歌の時には口を開けていらつしやいました。こうして楽しんでいただけよかったですなと思えました。また、色々な形での参加があることを教えてもらいました。

2回目の男性の方。自分の知っている歌が始まると大きな口を開けて歌っていらつしやいました。なかでも箱根八里の歌のとき、全員で1番を歌った後も、一人で2番までしっかりと歌われ、終わると皆さんから自然に拍手が出ました。若い頃に記憶したことは、しっかりと出てくるのだなあと思いました。

おやつタイムでも、回を重ねるごとに皆さんよくお話され賑やかになってきました。

**子どもと利用者さん**

毎回スタッフの子ども(2才前)と、回によっては小学生と幼稚園の子どもが参加していました。面白いことに幼児は、お兄ちゃんやお姉ちゃんと一緒だと興味がそちらに向きがちでしたが、参加者との楽しい交流もありました。

その子どもは車イスに興味を持ち、隣に行つて触ったりしていました。その時利用者さんの体に触れることもありましたが、優しいにこやかな表情で見守っていらつしやいました。後で聞くと、その方は職員さんが体に触れることをとても嫌がる方でしたが。

「茶摘み」を子どもと一緒に手遊びしながら歌った方は、とても楽しそうな表情をされていました。また、声をかけていただいた方には、子どもも喜んで歌集を触ったりしており、その姿を見て、その高齢者の顔には笑顔が浮かんできていました。

3回目に車イスではじめて来られた方。歌ってはいらつしやいませんでしたが、子どもが好きで保育園で働いていた経験もある方。子どもたちの様子や周りをききよると興味深げに眺めておられました。職員さんから「口は開いてはなかつたけど、小さい子も好きだし今日はたくさん刺激を受けてよかつたねえ、うち(地域の絆)にいたら寝てばかりだもんねえ。」と声をかけられていたのが印象的でした。

なお、音楽祭前の最後の練習を11月11日に予定しています。



**【1回目と2回目以降の変更点】**

- ① 一回目より人数が少なかった
- ② 机の配置を変更し、講師や子どもが近くで関わられた
- ③ 子どもの役割(一回目より子どもが高齢者と関わった)
- ④ 歌いながら手遊びをしたり、ゲーム的な要素が加わった



**京都ゆうゆうの里  
視察研修ツアー 報告**

10月9・10日(金・土)、宇治市の「京都ゆうゆうの里」視察研修ツアーを実施しました。

「ゆうゆうの里」は1973年に設立された「日本老人福祉財団」の運営する介護付き有料老人ホームで、京都ゆうゆうの里は全国に7施設あるうちのひとつです。今回は特に終末期までのケアに注目してツアーを企画しました。参加者は名古屋から安川代表をはじめ4名、福山から5名、東京と広島から各1名が加わった11名のツアーでした(2名は日帰り)。

まず京都駅JR乗換口で落ち合せて、奈良線で宇治へ。宇治駅からはタクシーに分乗して「ゆうゆうの里」に向かいました。昼食をいただきながら、ネームプレートを付けて自己紹介。13時半頃から約2時間、事務管理課の戸倉様に施設内を案内していただきました。とっても広いので皆さん少々お疲れ気味。施設内の「カフェテリア白川」でお茶をいただいてホッと一息。夕食前にこの施設の設立者「長谷川保」氏の人物像について加納が簡単に紹介後、約1時間半食事をしながら交流を深めました。(「長谷川保」氏の人物像を同封します)さらに和室に集まって夜中近くまでおしゃべりをしながら交流しました。





お部屋はマンションタイプ、テラス  
ハウスタイプがあります

2日目は世界遺産の宇治上神社と平等院を訪ね、昼食は黄檗山で普茶料理をいただきました。参加者の中の文化人類学がご専門の方から、「平等院は平安時代の貴族の人の終末期への思いを形にしたものだから」とお聞きして、1日目と2日目が見事に繋がりました。

以下、参加者の方から頂いた感想の一部をご紹介します。

**施設について**

- ・光の取り入れ方、風の通り方など山の形を生かした作り方に設計の素晴らしさを感じた。
- ・環境の良い丘陵地は団地を思わせる建物群。建物自体驚きでした。手入れも行き届き、維持するには相当の配慮が必要かと思う。
- ・プール、体育館、お茶室、喫茶店、シャトルバス、食堂、介護施設、診療所、葬祭場など高齢者の様々な希望を取り入れ充実していた。
- ・広い施設の中で自分の生活に慣れてくるに従い安定してくる、と思う一方、その中で自分の有りようの芯になるものが問われる。

**システム・サービスについて**

- ・何も不足に感じることもなく、この上ないと思う。
- ・とても行き届いていたが、一人一人がもつと人の為に役立つことをしたり、地域の人との交流がある環境も加わるとよいと思う。
- ・地域の方との関わりがないのは淋しい。
- ・自分が住んだら、全ての機能を駆使して最初に支払った金額のものを使い切って使用していくことが出来るだろうか？とても出来そうにない。
- ・卓球も囲碁も元気であればできること、元氣なうちに入って豊かな生活を楽しんでこそ、と思う。
- ・各種イベントやサークル活動、趣味の教室など参加型の仕組みがあるのはよいが、参加率はどうなのか。

**職員さん・利用者さんについて**

- ・利用されている方の様子からは不自由な様子は見受けられず、細やかな配慮の中で生活されている様子が伝わってきた。
- ・見学先で職員さんは立ち上がってこちらに体を向けて「いらっしゃいませ」と言ってくれました。
- ・大勢の居住者の方に充分の職員の方と知りつつも、人影少なく、実態を掴むに至らなかった。
- ・食堂では、2種類の献立から選択し、皆さんお仲間が集まるでもなく個々に食されているようだった。
- ・中浴場で見かけた光景。ご本人が浴槽にいらっしやるのに、他の人が空いている蛇口を使おうと

**その他**

すると飛び出して来られて、今は自分に使用権利があることを主張されていた。裕福な生活を経験して来られている人々が利用されているので、相容れない考えの方もいらっしやるかと思つた。

・職員さんは明るく挨拶されていていいなと思つたが、利用者さんの顔はそれほど明るくなかったですね。

・会話を交わす人をあまり見かけなかった。「繋がり」はサークルなどに入らなければならないのか？

・ペット飼育の需要が多いのは頷ける。

・結核患者さんを救うという高潔な精神で創始された心情が、今に全ての職員さんに伝わっていると思います。とても住みやすくこの上なく良いところと思われませんが、経営のこと、経費のことなどを考えると「そもそも言っておれない」ということはないのでしょうか。

・爪に火を灯すようにして貯めたお金を全て注ぎ込んでいたのでは、このような生活を送って一生を全うする余裕はないですね。

・大浴場から外を歩いて自室へ帰るときは寒そうですね。

・なつかしい福山の言葉にホッと、皆さまと一緒に出来た楽しさを持って、東京での毎日をまた始めます。

・(参加者の人は)初めてお会いする方が多かったですが、夜の交流会は楽しかったです。

・福山でどんな施設が今後必要なのかを考える機会を得ることができた。



館内を見学中  
(大食堂)



ばちり☆  
全員で記念撮影

**感想文**

Y・Wさん(福山・介護施設勤務)

約2時間かけてじっくりと色々な部屋タイプ、介護等や共用部分をご案内いただきました。その間ずっと耳に残ったのは案内をしてくださった職員さんの「それを考えればお得だと思えますよ」という言葉だった。確かにサービスは豊富で生活の安心・安全は守られると思うが、精神的な充足感や満足感を得られるのか不安に感じる点もあった。

人生の最期を迎える住み処として、ハード面は整備されているのに地域との繋がりがや人間付

き合いの面倒臭さや、思うように動けなくなったり体の残存機能でなんとか暮らしている、という自負など「嫌だ」「面倒だ」「つらい」というマイナス感情と共に時を過ごすのも終末期のあり方として「人間らしい」と言えるのかもしれないと思った。

そのように考えると損得勘定で「お得だ」とか「損をした」と計算しながら生き、終わるのは、私には温かみのない時の過ごし方ではないかなと思える。

視察ツアーは案内役の言葉がパンフレット以上に印象を植え付けてしまうものであるし、そこに暮らす人々の生の声とはまた違っているはずなので、注意が必要ではないだろうか。何を目的に何を知りたくて見学に来られているか、それを把握するのが案内役の使命と言える。ならば私の立場で私の属する法人のことを来訪者にどのように案内させてもらうのか、深く考えさせられたツアーだった。



**今年度も耐震委員会スタート!**

第1回耐震診断等評価委員会を

11月2日に開催予定です。評価

委員の皆様、今年度もよろしく

お願い致します。



**編集後記**



金木犀の香りがするとなんだかソワソワする私。金木犀が香る頃、我が故郷・愛媛県西条市は祭り一色に染まります。祭礼期間中は企業や学校が休みになり、遠方に暮らす西条出身者も仕事を休んで帰省するなど、祭りは西条っ子の心に強く根付いています。私の兄も大学進学以降ずっと地元を離れていますが、祭りにだけは毎年必ず帰省し、地域との繋がりを保っています。祭りによって交流が活発になり、絆が深まり、地域が一つになる。改めて考えると、祭りの効用って本当にすごいなと感じます。

自分の子どもたちもこんな経験を通して地元愛を育んでくれたらよいなあと思うのですが、自宅周辺にはあまりないのでしょうか(私が知らないだけ?)残念です。(原)



江戸時代から続く西条祭り↑  
普段は穏やかな町が熱くなる!